

ペットから感染する病気

臓器障害や肺炎など発症

堀越医院

堀越健太郎 先生

犬、猫、鳥類などのペットから人に感染する病気は、人畜（獣）共通の感染症と呼ばれています。すでに感染したペットの排泄物や分泌物が人の口に入ることや、かまれたり引っかけたりすることで感染します。以前から良く知られている疾患をいくつかあげてみます。

回虫症（犬・猫回虫の感染）寄生した犬や猫の糞便中に回虫の卵が排出され、それが人の口に入って感染します。人の腸でふ化した成虫が肝臓、脳、眼球などに入り込み、臓器障害を起こす事もあります。

トキソプラズマ症（トキソプラズマ原虫感染）感染している猫の糞便中のトキソプラズマ原虫が口の中に入り、感染します。成人では無症状であることが多いですが、妊婦が感染すると流産や胎児の先天異常を起こすことがあります。

猫引っかき病（パルトネラ菌感染）猫にかまれたり引っかけたりする事で感染します。猫の爪や口に付着しているパルトネラ菌の感染によると考えられています。創傷部の強い腫れや発赤のほか、リンパ節が腫れるなどの症状が出ます。

オウム病（クラミジア感染）感染したオウムやインコなどの排泄物や鼻からの分泌物を吸収したり、口に入れることで感染します。発症すると発熱や強い咳などの呼吸器症状が出現し、肺炎を起こすことがあります。

狂犬病（狂犬病ウイルス感染）感染している犬にかまれることで感染します。重篤な神経障害を発症し、致死率の非常に高い疾患です。昭和32年以来、日本では発症していませんが、いまだに外国では発症しています。

以上が良く知られた感染症ですが、以下のことに気を付けてペットと接してください。

- ①犬、猫などの糞便は感染症の主な媒介になりますので、飼い主は責任を持って適切な処理をする
- ②人にケガなどさせぬよう、常に他人に対する配慮を忘れない
- ③ペットと接触した後は手を洗う
- ④同じ布団に入れての添い寝や口移しでの餌与えなど、ペットとの濃厚過ぎる接触には気を付ける
- ⑤ペットにも多くの感染症があることを常に意識し、ペットの具合が悪い時は早めに獣医師の診察を受けさせる
- ⑥ペットへの各種予防注射もしっかり受ける
- ⑦むやみに野生動物や珍種の輸入動物などは飼わない